

2025年度 施策マネジメントシート【2024年度実績評価】

作成: 7年6月20日

施策番号 5-3-2	施 策 名 国際・地域間交流の推進	基本目標 住民と行政がともに考え未来へつなぐ自治のまちづくり 政策名 魅力を活かした、活気あふれるまちづくり				
			課長名 我妻 修一	内 線 242		
	主 管 課 魅力創造課					
	施策関係課 教育推進課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図		結果		
友好都市との交流による人材育成と交流を通して得られる情報をまちづくりに活かします。			町民・交流都市の住民		友好都市との交流に参加し、異なる文化に触れ、情報を得ることによって、他地域の歴史・文化、まちづくりの手法などを学ぶことができる		
成果指標		説明	単位	策定期(基準値)	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績
①	他都市(トレーシー市・広尾町・揖斐川町)との友好・交流提携の事実を知っている町民の割合	住民意識調査	%	トレーシー 68.5 広尾 41.5 揖斐川 58.3	トレーシー 63.5 広尾 53.4 揖斐川 59.8	トレーシー 65.5 広尾 52.0 揖斐川 65.1	/ / / / / /
②							/ / / / / /
③							/ / / / / /
④							/ / / / / /
成果指標設定の考え方		コロナ禍で交流事業は停滞していたが、トレーシー市、広尾町は前期の目標値と同値に設定。揖斐川町は前期の目標値を超えていることから、年1%向上を目指して目標値を設定。					

2. 施策の事業費

	策定期決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費（千円）	628	621	759	/ / / / / /	/ / / / / /

3. 施策の達成状況

(1)施策の達成度とその考察									
①2024年度の成果評価(前年との比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した	想定される理由	・コロナが明け、相互交流がコロナ以前に戻りつつあり、トレーシー、広尾町、揖斐川町それぞれの活動も加速化している。						
	<input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった								
	<input type="checkbox"/> 成果は低下した								
②第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる	根拠(理由)	・コロナが明け、活動の制限がなくなったことから、さらなる活動の活発化が期待できる。						
	現状の取組の延長で目標達成は難しく、 <input type="checkbox"/> いが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能								
	<input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい								
(2)施策の成果評価に対する2024年度事務事業総括									
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	揖斐川町交流推進事業		②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業						
③事務事業全体の振り返り(総括)	・トレーシー市との交流は、中学生の相互交流が再開した、今後、大人(協会)の相互交流についても、茅室町・トレーシー市交流協会と協議していく。 ・広尾町の交流は、従前の人的交流、経済交流に加え、地域おこし協力隊による事業を実施した。 ・揖斐川町との交流は、小学生の相互交流が再開し、JA同士の交流、役場の人事交流などを継続している。								
(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定期との比較)									
担当課評価	・市民に認知度について、計画策定期と比較し、広尾町、揖斐川町は増加し、トレーシーは減少した。コロナ禍において、海外については特に制約が多く、活動が停滞したことが要因の一つと思われるが、総体的には前進したと評価した。								
進捗結果	A	B	C	D	E				
			○						

A: 実現した
B: (後期実施計画策定期と比較して) 大きく前進した
D: (後期実施計画策定期と比較して) 変わらない又は維持したC: (後期実施計画策定期と比較して) 前進した
E: (後期実施計画策定期と比較して) 後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<ul style="list-style-type: none"> コロナが明け、日常の様々なものがコロナ禍以前に戻りつつある中、国内外の地域間交流も従前の姿に戻りつつある。コロナを経て、オンラインでのつながりが増えてきており、対面と合わせて双方を有効に活用した交流も推進していく必要がある。 関係人口、交流人口という観点からも、あらためて友好都市との交流を推進していく必要がある。
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)

<ul style="list-style-type: none"> 広尾町との友好都市締結から令和8年で40周年となることから、これを契機にさらなる交流を図るとともに、お互いの町の市民への認知度の向上に努める。 揖斐川町との友好都市締結から令和8年で20周年、さらに両JAの協定から10周年となることから、記念事業などの開催について、揖斐川町、JAと協議が必要。
--

6. 経営戦略会議(府内評価)

評価	成果指標等から、前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した B: (後期実施計画策定期と比較して) 大きく前進した C: (後期実施計画策定期と比較して) 前進した D: (後期実施計画策定期と比較して) 変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定期と比較して) 後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	府内評価同様に前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> 国際教養大学という大学は4年のうち1年は海外留学 授業は英語 視座は高く 国際感覚にも優れている。茅室町役場職員にそんな人を雇用ができるらしいのではないかと思う。 交流事業について町民の認識、理解度を上げていくためにも広報誌だけでなく、動画配信サイトなどの媒体を利用していくことも必要と考えます。また、報告動画を制作しておけば町内のイベントなどを利用し、伝えていく機会を設けられるのではないかと思います。 海外との交流については、協会との協議だけでなく、町民意見を取り入れた取り組みにできないか。 	A: 実現した B: (後期実施計画策定期と比較して) 大きく前進した C: (後期実施計画策定期と比較して) 前進した D: (後期実施計画策定期と比較して) 変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定期と比較して) 後退した					